

日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒710-0008
倉敷市鶴形一丁目五
倉敷キリスト会館内
TEL 086-422-1780

「行く手にイエスが立っている」

安息日の明けた
朝早く、イエスの
遺体が葬られた墓
へと歩く二人の女
性がいました。マ
グダラのマリアと
もう一人のマリア

玉島教会 牧師 高津 俊



です。この二人にとってイエスはとても大切な人、おそらくは最愛の人とも言える存在だったので、その死を目の当たりにして大きな絶望感を抱えていたでしょう。それでもせめてもの思いでイエスの遺体に香油を塗るために墓に向かいました。

墓の前に着いた時、悲しみに追い打ちをかけるかのような大きな地震が起きました。地震は天使の顕現に伴ったものでした。天使の姿は稲妻のように輝いていて、あまりの恐ろしさに番兵さえも死人のようにになりましたが、二人の女性にとっては主イエスを失った悲しみに比べれば、地震の恐ろしさなど、

どこか遠くの出来事のように見えあつたかも知れませんが、この状況から誰が良き知らせを予想できたでしょうか。悲しみの底にいて、さらに恐ろしさも加わりますが、心が壊れないように鈍くなっています。

天使の伝えたことは、イエスの不在でした。イエスの身体がそこに無いということはさらなる不安を呼び起こしかねません。その知らせは一筋の光と言うには強すぎる閃光のような、電撃的な知らせでした。あまりにも激しくて恐ろしさと喜びが同居する不思議な感覚です。一体何が起こっているのか、つらくて苦しい時を経験しているためなのか、すぐには受け入れられなかったことでしょうか。それほどに困難な局面を経験していましたから。

現在のキリスト教会も、大きなチャレンジを受けています。キリストの名によって集まることまでも妨げたパンデミックはやや落ち着き、主の復活を証しする私たちが再び集まって祈る生活を取り戻しつつあります。しかし、年明けに能登半島を襲った震災で、いまだに多くの人々が生活を取り戻せていません。ロシアによるウクライナ侵攻も2年が過ぎました。イスラエルとハマスの武力紛争も非常に多くの市民が攻撃の巻き添えと飢餓状態になっていいます。アフリカ大陸の各地、台湾、フィリピン、ミャンマー、チベットも衝突と抑圧と緊張の状況に心休

目次

イエスターメッセージ	1
第二回宣教会議報告	2
天草・鳥原クリシタン史跡巡りの旅	4
西日本五教区合同宣教協議会報告	5
引退・退任のあいさつ	6
教会紹介	7
世界祈禱日	8
編集後記	

まる時がありません。加えて地球温暖化による気象変化で森林火災と洪水が世界中で起こっています。戦争と天変地異がますます顕著になっていて、終末を思わせる様相に心が騒ぎ絶望感を否めません。私たちはあまりにも無力で為すすべを見つけれず心が鈍くなっています。

二人のマリアたちがイエスの埋葬された墓へ向かう道は、不安と絶望感を抱えながらの歩みでしたが、空の墓で天使が伝えてくれた知らせは、大きな希望となりました。そして、イエス・キリストは復活された、という福音を伝える道へと遣わされます。その行く手にはイエスが立っておられます。復活された主イエスと出会い、挨拶を交わして、喜びに満たされる道です。

戦争、山火事、地震、欲望のままに制御不能になった社会の混乱に直面し、不安と絶望感を抱えて立ち止まってしまふような状況の中で、イエスターの出来事は絶望の墓場へ遺体に塗る香油を携えて向かっていく私たちに、復活の主に出会う希望を与えています。墓場で見聞きしたことを伝える道の行く手には、和解と平和の主、イエス・キリストが立っておられます。

「第二回宣教会議報告」

東中国教区 副議長 中井大介

去る二月二十六日(月)にオンラインで開催されました。各地区委員会と各部署委員会からの報告の後に、つぎのような話題を取り扱い協議をいたしました。

①二〇二四年度予算策定のための協議会、②教会強化特別資金運用規程の改訂案について、③将来的東中国教区宣教に関する件。以下、それぞれの協議内容の報告をさせていただきます。

①二〇二四年度予算策定のための協議会
二〇一三年度より教区負担金の総額を現住陪餐会員数割り三分の一、経常支出割りを三分の二と定めて係数を設定してきました。現在の負担金総額はその当時より十七%目減りしており、その原因は現住陪餐会員数の減少と二〇一九年度後

半からのコロナ禍対応での減額効果によるものです。そうしたなかでかつては現住陪餐会員一人当たり二五〇〇円であったものを二三五〇円と設定しなおして算出しています。また、地区活動助成と各部署委員会助成金などによる活動内容に加えて、岡山県北部地区においては複数教会による共同牧会の試みがあることが話題に取り上げられ、地区の宣教を進めていくためには教区は進んで助成をしていきたいという意見が表明されました。

②教会強化特別資金運用規程の改訂案について
新規定がスタートしてから教会強化特別資金において会堂営繕関係の申請が比較的多いことが報告されています。もともと新規定には会堂営繕として定めた項目がなく、新規定の「三、支援対象事業(一)礼拝堂(礼拝場所)の整備並びに用地取得に関する支援事業」を当初より援用して対応してきました。そこで特設

委員会からは、教会強化特別資金において会堂営繕に関する支援事業という項目を付加し、現在の教区における申請状況に対応してほしい旨の要望が出されました。現状についての意見交換が成されたのちに常置委員会において取り扱っていくことが了承されました。

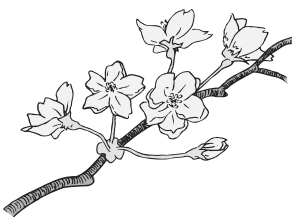
③将来的東中国教区宣教に関する件

ここでは第七十二回東中国教区総会議案第十二号「将来的東中国教区宣教に関する件」から「骨子③宣教研究を担う部署の設置について」、「骨子④委員会全体を通して予算をサポートする費目および部署の設置について」の議論の深化を目的として協議しました。「骨子③宣教研究を担う部署の設置について」では、現在の教区を構成している組織はそれぞれに実務を担う傾向が強く、全体を俯瞰して宣教の方向性を定めていくための基礎的な思想を紡ぐ部署がないということが

議論の発端となっており、各委員会の活動を有機的につなげていくための思想を言語化していく部署を想定し、その部署をどのようなメンバーによって構成していく必要があるか、その部署は何を取り扱うのか、が課題となりました。協議の中では、この宣教会議そのものがまさに教区の宣教ビジョンを描きうる集団であり、頻度をあげて活動してもよいのではないかという意見が語られました。また教団の宣教研究所をイメージする教区各地区および諸教会の歴史や現状などを研究し温故知新的な知恵を蓄積する部署となつてほしいという期待や、東中国教区においてそれぞれが取り組んでいる活動がフィードバックされるような機会が少ないので教区活動を後刻に再評価して次の活動をより良くしていくための機関となつてほしいという希望が語られました。「骨子④委員会全体を通して予算をサポートする費目および部署の設置につ

いて」では、現在の各組織が完全に縦割りでも動いてきたことを前提に、コロナ禍により教区の会議のほとんどがオンラインに切り替わつていくような会議の様式の変化があり従来の委員会費の中で執行率が著しくさがった費目などが出てきている、そうした中で特に委員会交通費や出張費などは各委員会ごとに確保するのはなく、すべての委員会が共有できて自由に使用できる費目として合理化し集約していくことができるのではないかとこの提案がなされています。ただし、オンライン会議という合理的なシステムで協議を続けていても、ときには対面での議論するという交流が生み出す発想の中には対面ではか得られない希有なものがあるのも事実です。教区が獲得したオンライン会議という手法によって教区財政の合理化がすすめられるのと同時に、だからこそ気づかされた対面での交流による充実した宣教の方策が生み出されていく

というご恩寵の機会を得られるように、限られた予算の中にありながらも大胆に資金を執行していけるように願っています。東中国教区は信徒とともに減少し、共同体につながる人々の高齢化も顕著になっていきます。こうした中で、東中国教区につながる人々がどのような委員会において、どのように関わりをもつていけばいいのかについて、東中国教区が置かれた鳥取県と岡山県における主の宣教のことを、その方向性や、その位置づけ、その方法論について横断的に検討していくような「将来的東中国教区宣教」の業を大切に取り扱っていきたいと思います。



「天草・島原キリシタン史」

「跡巡りの旅」報告

東中国教区社会委員会

倉敷教会 宮脇俊昭

日時 二〇二三年十一月二八・二九日
参加者 七名

社会委員会主

催の「天草・島

原キリシタン史

跡巡りの旅」に

参加しました。

五百年前、日本

ではキリスト教

への激しい弾圧

があり、その中でも島原・天草の一揆と呼

ばれる弾圧と戦いがあったところを訪ね、

当時を知り自分たちの信仰の見つめ直しを

する旅でした。

参加者は教師四名信徒三名。現地のガイ

ドさんを含めて八名が二八日十二時五〇分

に熊本駅構内で待ち合わせました。ほぼ予

定通りに集合し、道中の無事とよき学び



原城跡での早天礼拝

の時となるよう祈ってから、レンタカーを
駆って一路天草へ向かいました。約一時間
半の車中で今回の旅のガイドである長崎在
住の漫画家・西岡由香さんから天草四郎の
こと、天草・島原でのキリシタンに対する
弾圧そして一揆のことなどをお聞きしまし

た。お話が終わるころ天草四郎ミュージア
ムに到着。ここでは天草地方でのキリスト
教文化が盛んな時のこと、島原・天草一揆
にいたるまでのこと、天草四郎がどのよう
な役割を担ったのかが紹介され天草四郎の
真の姿と民衆の熱き思いが展示を通じて伝
わってきました。その後港へ移動し天草・
鬼池港から島原半島の口之津港へ。約三十
分の船旅で到着。十二月になろうかという
時期の十八時は真つ暗で海は見えません。
口之津港からそのまま原城近くのホテルへ
移動。温泉で暖まり心地よく眠ることが出
来ました。

翌朝は原城跡まで徒歩で登城。原城跡で
はVRにより当時の建物等を見ることが出
来ました。城跡を巡りながら城に立てこ
もったキリシタンたちに思いを馳せるひと
ときでした。政府軍により破壊されつくし

た本丸跡で礼拝を捧げました。次に有馬キ
リシタン遺産記念館へ移動。島原でのキリ
シタン文化と弾圧についての学びをしまし
た。今でも出てくる遺骨や弾丸の残がいな
どがジオラマで再現されていました。もつ
と時間をかけて見たい展示でした。

その後はお昼をいただき大村へ。大村イ
ンターナショナル教会で柚之原牧師から大
村入管での難民への対応のことを聞きまし
た。教会から大村駅まで車で移動。そこで
解散となりました。字数の関係でかいつま
んでの報告になってしまいましたでしたが機会が
あればまたご報告したいと思えます。今回
の旅ではガイドさんの費用と柚之原牧師へ
の謝礼を教区で補助していただきました。
ありがとうございました。



ガイドの西岡由香さん、柚之原寛史牧師と共に

西日本五教区 合同宣教協議会報告

米子錦町教会 廣田崇示

一月二九〜三〇日、蕃山町教会、光明園家族教会にて第五八回西日本五教区合同宣教協議会が行われた。コロナ禍で延期が続き四年ぶりの開催で、参加者は一名であった。

午後一時三〇分の礼拝から始まり、発題は、東中国教区総会議長である服部修先生（蕃山町教会）より「東中国教区の四本柱」と題して行われた。第七二回定期総会の「将来的東中国教区宣教に関する件」を上程するに至った経緯と目的



について、その背景を含めて説明があった。現在、即応的な働きであるオンラインサポートチームと教会整備のサポートチーム（オフラインチーム）は、動き出ししており、その成果と課題について検証する段階である。教区の宣教理論を生み出すための部署、その実施を担う部署の設置が中期的な目標であるとの見解を示した。教区内でも、聞ける機会があればという声上がるほど分かりやすい発題であった。その後、日本基督教団「宣教研究所」委員長である寺田信一先生（横須賀小川町教会）より挨拶があった。

次に九州教区宣教研究委員長である牧村元太郎先生（福岡社家町教会）から発題があった。近年の研究課題として日本社会における格差と貧困の問題を取り扱っているとの説明があった。引き続き西中国教区宣教委員会委員長である小松博士先生（呉平安教会）より発題があった。突然に前任の委員長が辞任し、慣れない中で教職研修会などの働きを行っているとの説明があった。参加することのできなかつた四国教区宣教研究委員長の芦名弘道先生（近永教会）からはレポ-

トがあった。

二日目は、難波幸矢姉（光明園家族教会）の案内により長島愛生園、邑久光明園を見学した。パンフレットや新聞等には出てこない事実を聞く中で、如何に私たちが差別しやすく自分では変わることができない罪深い者であるかを教えられた。

今回は、四年ぶりの開催ということもあって会自体の存在目的が問われるものとなったが、参加した皆様には意義深いものとなったと思う。参加できなかつた沖繩教区、四国教区の皆様と共に集える日を願っている。



光明園家族教会にて

「引退・退任のめぐりこい」

「引退にあたって」

三石教会
和気教会 牧師 延藤好英

引退にあたってお伝えしたいことを三つに絞って書かせていただきます。

第一に、今までのお交わりをありがとうございます。四〇年間の牧師生活の大半を東中国教区で過ごさせていただきました。神さまの赦しと恵みに感謝です。

第二に、わたしは引退後も和気町に住みます。新しい自宅に、「レモンハウス」というフリースペースを併設します。大人も子どももホッとできる憩いの場になればと願っています。



第三に、これからも御言葉の学びと祈りと賛美を大切にしながら、神さまの御心を尋ねつつ、フリーランスの説教者としてこの教区の宣教の業に参加できたらと願っています。

「退任のめぐりこい」

米子教会 牧師 野々川康弘



神に米子教会に派遣されて、九年間そこで仕えさせて頂きました

た。今、私の中に響いている言葉は、ヨハネによる福音書十五章十五節の中の「わたしはあなたがたを友と呼ぶ。」という言葉です。その理由は、主イエスは、御自分を私に分け与えて下さったのに、私は、米子教会、地区、教区の方々に、自分を分け与えることが出来ていなかった気がしているからです。自分が必要な時は、皆さんに連絡をさせて頂きました。でも、皆さんの必要を聴くための連絡は、ほぼ出来ていなかった気がしています。そんな私の罪をお赦し下さい。九年間有難うございました。

「退任のめぐりこい」

米子教会 牧師 野々川 藍

九年間ありがとうございました。米子教会の担任教師と西伯法勝寺教会の代務を辞し、新たな任地、仙台へと参ります。ただ諸般の事情から日野教会の主任担任教師は続けることになりました。日野教会は昔から月一回火曜日に礼拝を守っています。今九十年代の婦人の教会員二名、少しハンディキャップのある未信者の方一名、勝山教会の宇田兄が礼拝に集っています。礼拝後には茶菓を頂きながら沢山おしゃべりし、時に懐かしい童謡を歌ったり、交わりを楽しんでいます。私は月一回仙台から参ります。これからもお祈りを宜しくお願ひします。



教会紹介

●鳥取信和教会●

鳥取信和教会 牧師 塚本 望

○鳥取信和教会の歴史

鳥取信和教会は、一九二五年九月二三日に鳥取市公会堂で行われた柘植不知人師を迎えての「聖会」を歴史的源流とし、同年「鳥取基督伝道館」が上町に設立されました。その後伝道館は、県庁前、掛出町、職人町、西町、元大工町と移転しつつ、数名の信徒によって支えられました。

一九四一年に日本基督教団が発足すると、伝道館は「鳥取東部伝道所」として認可を受けました。ところが一九四三年九月の鳥取大震災により会堂は全壊、加えて一九五二年四月の鳥取大火によって大打撃を受けました。

こうした中一九四二年に東品治町で家庭集会が始まりました。集会は西町、玄好町へと移転しながら続けられ、一九五五年一月一六日「鳥取玄好町伝道所」として設立されました。(この日を鳥取信和教会の創立日としています。)

また同年には、吉方温泉

(鳥取信和教会の現在地)

でも家庭集会

が始められま

した。次第に

玄好町と吉方

温泉の二つの

群合同の話を持ち上がり、一九五七年四月

に名称を「鳥取信和伝道所」と改め、場所

を吉方温泉に定めて、新たに歩み始めまし

た。

その後一九六〇年十一月に柳澤菊代師が

赴任し、一九六一年四月には第二種教会の

認可を受け、同年六月二五日に「鳥取信和

教会」設立式と牧師就任式が執り行われま

した。(東部伝道所は一九八二年に今村源

三郎師引退に伴い閉鎖され、今村師は信和

教会に迎えられました。)

○「信和」の由来

合同による教会名称についての話し合い

が持たれた際、互いに「親和」「信和」と

字は異なるものの、異口同音に「しんわ」

の共通案が出され、「我々は『信仰によっ

て和した』のだから」との一致をもって、

「鳥取信和」と定められました。

○現在の鳥取信和教会

昨年度まで主任牧師を務められた廣田崇示師が、米子錦町教会との兼牧から専任牧師として転任され、今年度より新任牧師を迎えました。

昨年度まで、コロナ禍によって諸集会は中止し、主日礼拝も約半分は、各家庭に事前に配布した週報をもとに、家庭礼拝を守る形式が採られました。しかし年が明けると徐々に緩和へと向かい、今年度は会堂での礼拝が滞りなく守られています。これまでの一つ一つが当たり前ではなく、主の恵みであったことを改めて感じさせられました。

現在、現住陪餐会員十四名、不在陪餐会員八名、礼拝出席者平均十名前後の小さな群れです。

今後ともお祈りの内に覚えて頂ければ幸いです。



世界祈禱日

蕃山町教会 坂本新子

世界祈禱日は毎年三月の第一金曜日に、世界中で教派を超えて行われている。岡山地区ではここ三年、新型コロナウイルス感染症によって集まることを控え、休会や各教会で工夫して集まってきた。今年三月一日に久しぶりに対面で行った。あとの懇談の時はもてななかったが、対面でできたことは感謝である。礼拝堂に響いた賛美の声は、集まれなかった間の思いも含んでいるかのようにであった。当番教会は蕃山町教会で、十三教会から五十一名が集まった。

蕃山町教会では、十二月から準備を始めた。各教会に案内を送り、式文の必要部数をまとめ注文をするなどした。二月には参加教会の代表者による準備会を行った。そこではエ



岡山地区世界祈禱日

フェソの信徒への手紙四章一〜三節の服部牧師の奨励があり、現在のパレスチナではそれぞれに言い分はあるが、柔和な心とは相手のどんな態度にも腹を立てないこと、それは救われた喜びからくること、寛容の心とは受け入れることの出来ない多くの理由を捨て相手を受け入れることとのメッセージが語られ、それを聞いて当日の運営の準備をした。

当日は「世界祈禱日式文二〇二四」に沿って行った。今年のテーマは「パレスチナからのメッセージ あなたがたに勧めます。……愛をもつて互いに忍耐しなさい。」ということであった。これは二〇二一年から二〇二二年にかけてパレスチナの女性たちによって準備されたものであり、現在その地で起こっている出来事に由来するものではないが、今年このテーマで集会がもたれたことには、特別な意味を感じずにはいられない。会の後には現地のスライドを流し、現地の様子を自由に見られるようにした。

二〇二五年の当番教会は、岡山ナザレン教会と岡山博愛会教会に、二〇二六年は旭東教会になっている。

編集後記

二〇二四年を迎えた一月一日に能登半島地震が発生し、被災した方々を案じる日々を過ごしています。多くの方々の祈りが被災地に届き、主による助けが与えられることをお祈りします。

今号の誌面には対面する形でおこなわれた行事がいくつも掲載されています。ここ数年間コロナ禍のために控えられていた東中国教区の諸活動でしたが、喜ばしいことに徐々に活発になってきています。教区や諸教会のはたらきがますます豊かに広がり、顔と顔をあわせて交わる恵みが私たちの宣教の活力となっていくことを願っています。

(W)

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時〜午後九時
イイミミト 電話番号 ○九〇ー一三三三〇ー八七三〇
ハナソウ